

1 教育目標
心豊かにたくましく生きる力を育み、将来、社会の一員として、学習を続け生活できる人間を育成するため、一人一人の児童生徒の能力を伸ばす教育を行う。

2 評価
A:目標は十分達成されている B:目標は概ね達成されている C:目標はあまり達成されていない D:目標はまったく達成されていない

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた評価が 90%以上→橙色 80%以上→黄色 にて表示

重点課題	重点課題についての目標(学部・部)	目標実現のための取組	評価(%)				次年度へ向けて
			A	B	C	D	
1 小・中・高一貫したキャリア教育の推進	キャリア教育発達段階表の活用	指導略案にあるキャリア教育の観点の項目を単元ごとに必ず記入することで、個別の目標と教科の目標のつながりや、キャリア発達の視点からの将来像と今の実態のつながり等を意識した授業づくりを行う。	10	80	10	0	職員研修などで職員の「キャリア教育」についての認識を深めたり、学期始め等、定期的にキャリア教育発達段階別取り組み一覧表の活用について周知したりすることで、ライフキャリアを意識した授業づくりを推進する。年度始めには一覧表の活用方法を共有し、担当児童生徒の個別の目標とキャリア教育の観点からの指導目標とを関連付けができるようにしていく。発達段階表の活用についても、学協会等で定期的に説明していく。
	縦の連携の充実	学部を超えた交流や学習を行うことで、他学部の児童生徒の様子も共有しながら、多様性を認め合い共に学ぶ雰囲気をさらに向上させていく。	15	75	10	0	キャリア教育推進委員会を中心に、学部集会や学部間交流など、縦の連携ができる活動を検討していく。継続して「個性や特性等を認め合い共に学ぶ活動」を推進していく。小学部では、合同自立活動や他学部との交流学習を充実させながら、バランスボールや感覚運動遊具、農園など共通の教材を用いた学習について共に教材研究を行い高めあっていく。中学部においても、他学部との交流を継続することで、さらにお互いのことを知る機会にできるようにする。高等部との交流では、校内実習に参加することで、高等部へ向けた準備を具体的に意識できるようにしていく。高等部においても、今年度の取り組みを継続していき、さらに深めていく。
	児童生徒会の充実	代表委員会で児童生徒が主体的に活動できるような運営を心掛けるとともに、全校の児童生徒の縦割り活動を推進し、児童生徒一人ひとりの主体性を育てていく。	23	64	13	0	代表委員会等において、児童生徒が主体的に活動できる場を増やしていく。年間を通した縦割り活動の定期的な取り組みも継続して実施していく。
	卒業後へつながる特別支援教育	進路指導連絡会を開催し、関係機関との情報交換を行うとともに、現場実習ならびに進路選択等において助言を生かす。	33	67	0	0	進路指導連絡会を継続して実施し、学校の取り組み、生徒の実態、福祉事業所や関係機関の取り組み、受け入れ状況などを共有する。また、学校の取り組みに対する助言を進路選択や各学部のキャリア教育充実等の改善に生かしていく。
		関係機関や事業所から話を聞いたり作業体験ができる進路合同セミナーを行ったりすることで、児童生徒や保護者、教師が卒業後の就労や生活を踏まえて、今の目標を考えられるようにする。	33	67	0	0	生徒や保護者が直接福祉事業所や関係機関から話を聞くことができる「進路合同セミナー」を継続して実施し、早い段階から卒業後のイメージを持てるようにする。保護者に対しては、卒業後に向けて今取り組む必要があること等についてイメージできるように、「進路のしおり」や説明会等を通して情報共有を行う。
	児童生徒個々の能力や特性に応じた自立活動の充実	「自立活動とは」「個別の指導計画(自立活動)の作成にかかわる思考の流れ」等の研修を行う中で、新しい時代に求められる教員の資質向上を目指していく。	23	67	10	0	自立活動が教育課程上、心身の調和的発達の基盤を培う位置づけであるととらえ、収集した情報を整理して個別の指導計画に反映させるようにできた。今後は、ウェルビーイングの視点をもって自立活動に取り組むことが必要だと考えている。
		自立活動用の指導案の新様式を用い、各学部、1本以上自立活動の研究授業を行うことで実践的指導力を向上させていく。	38	62	0	0	自立活動の新しい指導案の形式で各学部1回以上は研究授業をすることができた。実態を把握した上でのグルーピングや授業の流れの確認、大学教員による研修、1年間の振り返り等、1年間を通じて取り組めた。今後も全学部で同様の取組を続けながら教員の実践的指導力の向上を目指し、自立活動の充実に繋げていく必要がある。
		肢体不自由の児童生徒の担当者会を設け対象児童生徒の共通理解を深め、合同自立活動を実施したり、外部講師の助言を生かして身体へのアプローチの仕方を一緒に考えたりする。	18	74	8	0	今年度初めて肢体不自由の児童生徒の担当者会を設け、学部を超えた合同自立活動を実施し、身体の学習を行った。担任だけでなく複数の教員で関わることができ、次年度にも取り組みを繋げたい。PT、運動療法士等の外部専門家に助言を求めながらより有効な学習方法を追求していきたい。
	新しい時代に対応したキャリア教育を創造していく	自立と社会参加を見据えてICTの利活用やキャリア教育を充実させていくために、すべての教職員が活用しやすい「教育の情報化」を推進していく。	15	65	20	0	進路学習や進路校外学習など進路に関する学習の校内事例をクラウド上で共有する場を作り、卒業後へ向けた情報共有が確実に効率的にできるようにする。
	主体的に児童生徒が活動できる授業を目指した授業改善	授業研究を利用して、通年で授業改善に取り組む。児童生徒の主体性を引き出す支援について意識して計画し、共通理解を行う。	28	70	2	0	授業研究などの機会を利用して、キャリア教育の目標を意識した系統的段階的な指導を推進していく。児童生徒につけたい力を意識した授業を行う中で、児童生徒が主体的に活動できる支援を授業研究の中で検討し、授業展開にいかす。

2 「つけたい力」を意識した授業づくりと研修内容の充実の推進

生徒の実態に合ったねらいや学習指導要領に基づいた授業展開	教育課程と個別の指導目標や、児童生徒の実態と具体的な支援方法等のつながりを意識した授業展開を充実させる。	15	75	10	0	教務関係の研修会を繰り返しながら、各授業の教育課程上の位置づけの確認やクラス全体での実態把握をしていく。授業に関しては、授業研究を中心とし、教師で支援について深めていくことを継続していく。児童生徒の実態を多面的・多角的に捉え、指導要領を基に、各教科で適切な年間指導計画を立て、個々の教育的ニーズに応じた、個別の指導計画を作成し、実践・評価・改善に繋げていけるようにする。
学習活動に応じた指導体制の充実	学部の教師がチームで生徒に関わることができるよう、学級の日や学部会等で児童生徒について話し、指導や支援について共通理解を図る。	45	50	5	0	学年主任やクラス長を中心に指導体制や学級経営について学級間で情報共有をしたり、学部全体で児童生徒情報を共有したりすることを続けていく。チームで児童生徒の指導・支援ができるように、学級の日や学部会、日々の職員室での児童生徒の情報共有を密に行っていく。
	目標や学習課題に応じて学習グループの形態や教師の体制を工夫する。	30	68	2	0	年度当初に決めたグループにこだわらず、児童の実態に合わせて柔軟に改編したり、実態に合わせて年度途中でもグループ編成を考えたりしていく。
卒業後を見据えた指導体制	児童生徒が主体的に活動できるように、授業展開等を考え、適切な支援量に調整していけるようにする。	20	75	5	0	卒業後の姿イメージした支援方法や指導体制について随時見直し、改善を続けていけるようにする。そのために、キャリア教育について学校全体で教師が学び合い、高め合い、情報共有を行っていけるようにする。授業研では、支援について各グループで話をする事ができた。授業研でとりあげた授業だけではなく、他の授業にも広げることができればよいと考える。目標や学習課題に応じた学習グループの形態を工夫する。
的確な実態把握と学習指導要領に基づく個別の指導計画の作成	個別の指導計画の作成にあたっての共通理解用の資料や生成AIを活用した計画作成研修等を行うことで、効率的に的確な実態把握ができた指導計画を作成できるようにする。	15	45	40	0	年度はじめに個別の指導計画の書き方に関する職員研修を行う。また生成AIの活用について模索し、情報発信や職員研修を行う。
	個別の指導計画の読み合わせを各クラスで行い、記載内容を複数の目で確認することで、情報共有ができ、チームで児童生徒の小さな変化を敏感に察知できるようにする。	33	62	5	0	次年度も個別の指導計画の記載内容を複数の目で確認し、指導・支援に生かす。
校内のICT機器等を効果的に活用するための研修の実施と取組の充実	職員会議終了後の時間などを有効活用することで、ICT機器等の効果的な活用のための研修等を効率的に実施していき、すべての教員が主体的に学べる雰囲気をつくる。	28	59	13	0	お互いに学び合う雰囲気づくりを大事にしながら、定期的にICT活用研修を実施していく。
校内研修の推進	各係部会、各委員会から研修内容の希望を吸い上げ、計画的に研修を行う。	23	72	5	0	左記のように取り組み、比較的好意的なアンケート結果が得られたので、今後は、隔年で行えるような研修、新しく出てきた課題に対する研修など整理しながら研修計画を立てていく。
	様々な分野の専門家を外部講師に招聘し、活用する。	50	50	0	0	今後も県教委の外部専門家活用事業や外部専門家配置事業を活用し、計画的に来校していただいたり、リモートで助言を得ながら、教員の専門性向上、授業力向上を図っていく。
教職員間のコミュニケーションの促進による実践的指導力の向上	月ごとにOJT研修目標をかかげることで、教師に取り組むべきことを明示する。	43	52	5	0	学校の教育活動に合わせて、教員の実践的指導力を高めるために月目標を掲げ、職員室や教員各自のパソコン画面に明示した。目標を指標として、日常の教育活動で経験者がさらに主体的に声を発し、職員集団のチーム力向上を目指していく。
外部専門家事業を活用した支援方法や授業内容の改善	外部専門家の意見を参考に改善を続ける。専門家の意見をいただく前後で課題の焦点化、具体的な反映方法の検討を行う。	30	67	2	0	PT、OT、ST、大学職員等からの助言を学部会などで共通理解したり、授業改善に生かしたりした。よりよい活用の仕方を検討できた場合は、次年度以降も、年度途中の活用方法を変更も実施していきたい。※OODAループ(ウーダ・ループ)的対応。また、今後も全体計画に基づきつつ、常によりよい活用方法を検討し改善していく。※PDCAサイクルの活用。外部講師からの指導助言を参考にしながら授業改善に取り組んでいき、それを学部全体や学校全体で共有していきたい。
授業作りや研修の時間を確保するための業務改善及び働きがいのある職場づくり	業務改善プロジェクトチームを立ち上げ、年間を通じた業務改善を行うことで、授業作りや研修の時間を確保していく。 児童生徒としっかり向き合うために、教職員一人ひとりが心身の健康や勤労意欲を維持し、生き生きとやりがいをもって仕事ができる職場にしていける。	18	62	20	0	職朝掲示板でのteams活用以外にも、ICTを有効活用した情報共有や情報収集の能率な方法を提案する。AIに任せられる仕事を明確にし、AIに仕事を任せながら、それ以外の業務を並行して遂行していける職場にするため、必要な研修等を実施していく。

3 危機予 防・対応が 可能な学 校づくりの 推進	危機に対する児童生徒の意識高揚と対応能力の育成 児童生徒が安心・安全に登校できる学校づくり	防災訓練、避難訓練、シェイクアウト訓練において、より具体的な活動や体験を実施し、緊急事態発生時の避難経路や避難方法を体験・経験を通して身に付ける。	35	65	0	0	今後も防災訓練、避難訓練、シェイクアウト訓練等を実施し、緊急事態発生時の避難経路や避難方法を体験・経験を通して身に付ける。また、防災全体計画を毎年更新し、緊急時の職員の動き等よりよいものにしていく。
	児童生徒の安心できる学校生活	生活アンケートを実施するとともに、生活の中で注意深く観察を行い、児童生徒の気になる事象を早期発見、対応できるようにする。	28	72	0	0	生活アンケートを更新し、全職員が共通理解し、児童生徒の変化を早期発見・対応できる組織的な取組を継続して行う。
	いじめ防止基本方針年間指導計画の見直し	計画の精査や必要事項を見直し、新しく進んでいく環境に向け対応できるようにしていく。	16	69	15	0	学校・保護者・警察・関係機関と連携し、法律やマニュアルに従い、未然防止、早期発見、迅速な対応に努めていく。
	性教育にかかわる指導の充実	命の安全教育、LGBTQに関する課題について、各学部、学年と連携し発達段階に応じた指導を進める。	15	62	23	0	命の安全教育とはどのようなものか、児童生徒の実態に応じた学習内容や展開はどのようなものが考えられるか等、部を中心に各学部、学年との連携を引き続き保っていく。LGBTQに関しては、各学部、学年の実態に応じて取り上げ、指導を進める。
		性教育担当者会を中核とし、教職員間で教材や実践例を共有したり、各学部の取り組みを保護者に発信したりする。	15	64	21	0	性教育全体計画をもとに、年度当初に各学部、学年で指導計画を立案し、計画的に指導を進めていく。指導した内容は担当者会で共有するとともに、機会を捉えてブログや保健だよりで保護者へ情報発信し、理解・協力を得る。
感染症や熱中症の効果的な予防	各学部長や各授業担当者や情報を共有し、注意喚起するとともに適切な支援を行う。保護者に対して熱中症防止の取り組みなどについて情報提供を行い連携を図る。	35	60	5	0	適切な時季を捉えて、感染症拡大や熱中症警戒アラート等の情報を教職員及び児童生徒へ発信し、注意喚起を行う。保護者に対しては、HP上や楽メ配信等で、必要に応じて感染症や熱中症予防に関する情報提供を行い、理解・協力を得る。	
4 学校教 育目標の実 現	センター的機能の発揮	市内こども園・小・中学校等からの教育相談や研修会の講師依頼を受け、適宜対応をする。また、高校通級の協力校としてサポート体制をとり、相談等を行う。	31	67	2	0	子ども園から小、中、高等学校まで、様々な課題についての教育相談及び研修会講師依頼を受け、実施している。最近では心理検査の依頼が増えていることも鑑み、ニーズに応じて、臨機応変な教育相談の形を心がける。また、相談の主訴や研修会講師依頼のテーマによっては、校内の人材を活用しながら引き続き取り組みを進めていく。
		講演会や教材展等を学校園や関係機関に公開する。	45	53	2	0	教材展では、実際の活用方法や活用例等を提示したり、ワークショップのコーナー等を設け、見て、触って、体験できる教材展を目指す。また、特別支援教育に関連する研修会については、市内こども園・小・中・高等学校のニーズを踏まえ、広く研修の機会を提供する。
		学校園や関係機関との連絡・調整を図ったり、会議等に参画したりする。	33	59	8	0	各関係機関とのつながりや連携を継続し、各種会議への出席や学校園への訪問を通して、適切な就学・進学支援につなげていく。
	人権教育の充実及び人権意識の醸成	「児童生徒に対して」及び「教職員同士において」肯定的な態度やポジティブな行動を促す支援や接し方を心がける。	20	78	2	0	教職員の人権意識を高め、児童生徒に対して肯定的な態度で接するとともに、ポジティブな行動を促す支援を心がけられるように研修を通して啓発する。
	包摂性にある共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進	副籍をいかした居住地校交流や交流及び共同学習について、個々の児童生徒にあったねらいを明確にし、それぞれが充実した時間を過ごせるようにする。	28	67	5	0	副籍をいかした居住地校交流や交流及び共同学習について、個々の児童生徒にあったねらいを各学部で明確にし、それぞれがねらいに沿った活動ができるようにする。
	ICTを活用した地域交流	eスポーツやプログラミング学習を活用した地域交流を計画する。	35	63	2	0	今後も、eスポーツ交流会で、近隣の老人施設や地域の方、地域の学校、近隣特別支援学校等と交流会を実施していく。今年度から始めたプログラミング学習を基に、さらに生徒の論理的思考力を深められるように取り組む。
	福祉及び医療、行政などとの関係機関連携の深化	市教育委員会や福祉、医療、行政などとの連携しながら、地域課題を解決していくための研修会等を計画する。	15	64	21	0	地域小中学校や福祉関係機関、行政等における教育的課題や研修ニーズの情報収集に努めたり、情報共有をしたりしながら有効な研修を計画していく。
	食育の推進	食育全体計画を基に、食育だよりを毎月発行したり、各月の食育目標に関して食育掲示コーナーを活用し啓発を行ったりすることで、食に関する意識を向上させていく。栄養教諭が食育の授業を行うなど、発達段階に応じた食に関する指導を実践していく。	36	56	8	0	食育全体計画をもとに、HP上に食育だよりを掲載したり、食育に関する掲示物を作成して披露したりし、食を大切にすることを意識づけを行っていく。地域の栄養教諭と連携し、各学部、学年で実態に応じたテーマを設定し、食育指導を行う。
地域に信頼される学校	服務規律を遵守し、豊かな人間性を涵養していける職場を目指していく。	23	78	0	0	服務規律の遵守や各種研修会、情報共有を継続実施することで、教職員の資質向上、家庭や地域との連携、危機管理に努めていく。	

学校運営協議会からのご意見

- ・次年度以降も、キャリア部長を中心に福祉事業所との連携を継続しながら、お互い勉強していきたい。
- ・同じ地域で過ごす子どもとして、地域の学校と特別支援学校が、一緒に活動できていることは素晴らしい。今後もその方向で進めてほしい。
- ・学校の取り組みや評価の仕方はきめ細かくて、とてもよいと思う。
- ・学校ではICTやAIの活用が進んでいるが、便利なツールが苦手な児童生徒や保護者に対しては、スモールステップで丁寧な対応をお願いしたい。保護者も情報を確実に確認していけるような、配慮（合理的配慮も含めて）してほしい。
- ・就職を希望している生徒に対しては、卒業後社会にでるという意識で教師も接してほしい。福祉事業所でも、成人の方に対して「〇〇ちゃん」という呼び方は不適切であるという研修もあった。ただ、急に「〇〇さん」という呼び方を始めると冷たい感じもしてしまう。人権意識や社会人になるための準備や意識について、保護者の理解も進めていく必要がある。